

ま と め / 講 評

横山 正人氏、岡 裕大 氏

司会

「それでは本日のフォーラムについてのまとめ、および講評として、専門家のお立場からいただきましょう。最初に九州地域情報化研究所、横山様お願いいたします。」

横山氏

「まとめの言葉ということになるかどうかわかりませんが、実は私、アンケートの結果というのを期待していました。皆様方のようなボランティアに関わっている方が日頃どんな風に思われているかに非常に興味を持っていただけです。

今日の結果を見ますと母数は少ないですが、一喜一憂したというのかな、この結果を見ますと私が思っていた以上に、例えばズームを使った Web 会議とか、LINE の活用とか、そういうことは結構やっておられるんだ、というそんな思いがいたしました。

一方では、デジタル社会というのは我々にはそう身近なものじゃないんだ、という風な感覚を持たれている回答も多かった、と非常に気になったところです。

それから私が先ほど話した中にもありましたが、どんな組織、大きな会社であろうと小さな2、3人しかいない会社でも大小に関係なく、このデジタル社会の中での企業の在り方は非常に問われているわけです。

我々一般の市民のいろんな活動、そしてなにがしか組織を作ってその中でやっていこうとする時というのは、やはりこういうデジタル的な感覚を可能な限り入れていただきたい、というのが本当のところなんです。

さき程の久留米市観光ガイドボランティアのお話、いい成果の話がありましたが、それも一つだと思います。

LINE で何かするとき、例えば“お花、綺麗に咲いてたよ”とかの情報のやり取りが大事で、それがどんどん広がっていくことによって、その情報はますます大きな力になってきます。このデジタル社会の中では、そういう『情報を共有し合っていく』ということが我々人間にとっては非常に大事なのかな、という感じがします。

今、テレビにしるインターネットにしる、どれが正しいのか間違っているのか分からない時代でもあります。

そう言いながら一人一人が身近な中で発する言葉というのは、一つ一つが重みを持っているわけで、そういった中でのコミュニティを少しでも作っていくということは何をやるにしても大事なところではないかと思います。

情報過多な時代、“何かすると危険だ”という思いも当然あるかと思いますが、出来るだけそういう素直な、わたしなんかいつも家内に“あんたは良い人過ぎる”と言われるんで

すが（笑）、そういう事を怖がらずにいろんなことをチャレンジしていただくことは大事だと思います。

それからもう一つ、こういう活動するときには大事なことは、広がりのある輪を作っていくということです。

例えばどんどん組織は高齢化していきます。

先程話した、20年前に作ったシニアネット長崎、私が50歳の時に作りました。

会員の入会基準は、私よりも年齢の高いことでした。だから今でも入会出来るのは50歳以上というふうになっています。ところが活動を続けていくうちに、その当時、一番多い時は200人位いたんですが、200人のうちの平均年齢が65歳ぐらいでした。今何歳だと思いますか、76歳ぐらいになりました。最初、80歳以上の方の参加は200人ぐらいのうちに10名いるかいないか位だったんです。今、何十名も80歳以上の方がいます。90歳近い方もいらっしゃるんですが、歩けるうちは参加したいということです。

そういう風にしてどんどん輪が広がっているのは何かというと、当然これは人から人への直接の対面での口伝えということもありますが、やはりこういう情報、デジタル社会のツールを使いながら、いろんな形で広範囲に仲間を作っていくこと、この大事さは非常に大きいという、これは今のデジタル社会でないとできないことだと思います。

今、新聞とかチラシ広告も以前に比べると少なくなってきた、いろんなデジタル広告が増えてきていると思いますが、そういった意味ではいろんなツールを使いながら、自分の情報を如何に広く発信していくかという、こういう気持ちは是非、組織を存続させる為にも有効活用していただきたいと思います。

仲間を増やしていく、そして組織間同士のつながりも、もっともっと作っていくことが大事なんじゃないかという風に思います。ありがとうございました。」

司会

「横山様ありがとうございました。続きまして、福岡県デジタル戦略推進室の岡様お願いいたします。」

岡氏

「今日は、皆さん長時間ありがとうございました。私から講評というのは大変僭越でございますので、一個人の感想としてお聞きいただければいいかなと思います。

私はデジタル戦略の策定に昨年度から携わって、県としてどういうビジョンで進めていくべきなのかみたいなことを、庁内全体で議論するわけですが、“当然デジタルが必要だ”という人もいれば、“いやいやデジタルじゃなくてもっとこうすべきだ”という、デジタル以外のことをすべきだという意見も当然たくさんあって、いろんな議論が一年かけてありました。それと同じように多分、デジタルって必要なのかどうかは個々人で考え方が違うと思います。あるいは業務とか普段やってらっしゃる営みの中で、本当にフルのデジタル

化をしないといけないのか、それとも少しだけでいいのか、と多分違うと思いますが、今日こういった議論ですとか講演とか、場を通じていろんな情報を少しずつ吸収していただいて、わたくしも生の声を聴くという機会はそうそうないものですから、大変参考になりました。これからの仕事に活かしていけるんじゃないかなという風に思った次第です。

私も 10 年ぐらい前から県の情報政策に携わっていますが、デジタルというのは得手不得手がやはりあります。大量の情報を一律に瞬時に計算して処理するというのはデジタルが最も得意とするところで、あとはそのコミュニケーション、メールや LINE とか、そういうところは得意なところですよ。

横山先生がおっしゃったように空気感を伝えたり、やはり触れ合っていないと伝わらないものというのは、なかなかまだ伝えきれていないところだと思います。

それはそれで本当に大事だなと思いますし、私は今、デジタル戦略室にいますけど、やはり対面で交渉はしないといけない、というところもあったりします。

デジタルが得意なところを理解して、“ここはちょっとデジタル化してみよう”とか、“LINE をしてみよう”とか情報を交換していただき、“ここにこういうものがありましたよ”、とパシャッと写真を撮ればすぐ皆さんに伝わり、使っていただければいいわけですよ。それ以外で、ひざ詰めでお話をしないといけないというところは、やはりこれまで通りひざ詰めでお話をしていただければいいと思います。

そういったところを守るためにも、デジタルを使えば簡単にすぐ済ませるところはデジタルを使っていただければいいし、二つに分けて考えていただければいいのかなというふうに思いました。今日は、ありがとうございました。」

司会

「岡様ありがとうございました。」

皆様本日は最後までご参加いただきまして誠にありがとうございました。

県内の各地域で活躍されている文化ボランティアの皆様にとりまして、これからの活動が日々進み続けるデジタル社会とうまくなじむことが出来るように願ってやみません。

今日のフォーラムがその為のヒントの一つとして役立ったのであれば大変うれしく存じます。それではこれで福岡文化ボランティアフォーラム 2022 は終了いたします。

本日のご参加、誠にありがとうございました。」